

## 晴れ間

南出謙吾

うらぶれた地方のビジネスホテル。そのロビー。

滅多に使われることのないテーブルが数脚。

上手側はフロントへ、下手側は外へとつながっている。

向かいには大きな窓があり、駐車場と、その先には低い木々。木々に挟まれるよう用水が流れている。土曜日の屋下がり、普段着姿の男が二人（丸岡と小松）、テーブルをはさんで座っている。小松は外を眺めていて、丸岡は、そんな小松をじっとみている。

小松 いいところですほんと。

丸岡 いえどうも。

小松 久しぶりに来てやつぱり思うんです。なんというか中途半端な町で。

丸岡 はい？

小松 自然是豊かだけど絶景っていう訳じやないし、雪は降るけど驚くほどじやない。温泉街の風情つていつても中途半端に近代的。張り切つて開発したんでしうね。失策の町並みとでもいうか。

丸岡 私は好きなんですよ。

小松 私もです。

丸岡 あああそうですか。

小松、窓の外を見て。

小松 このホテルも妙な存在ですよ。温泉街に突然の中途半端なビジネスホテル。やっぱ当然ガラガラでなんでつくつちやつたんでしょうね。

丸岡 小松さん。

小松 （そつと）シングル一泊3800円ですって。助かります今回自腹なんで。

丸岡 わざわざお越しただいてほんとありがとうございます。

小松 いずれこの町に住みたいなあって思つてる位です。

丸岡 ちよつと不便ですよ。車ないと生活できないですし。あでも車があれば、どこにでも行けますし、むしろ都会より便利かもしません。一通りのものは揃つてますし。なのにほんと静かで。

小松 ほんとうに残念です。

丸岡 なんとかそこを。

小松 あとあれ、フロントの金魚とか、妙な格言の書いた額？ホテルのロビーというより土建屋の応接室みたいで。

丸岡、鞄から土産箱を取り出す。

丸岡 渡しそびれてまして、これ。

小松 なんですか。

丸岡 この辺じや、ちょっとは有名なまんじゅうです。酒饅です。おいしいですよ。  
小松 もちろん知っています。ほんとおいしいですよこれ。  
丸岡 どうぞ。

小松 え、あいやいやおかしいですよ。

丸岡 なにがですか。

小松 私がこうして訪れた側なわけなんですから。

丸岡 ままそれは。

小松 手土産持つてくるのは私のほうで、もうのは変ですよ。

丸岡 いいじやないです。

小松 ああなんで持つてこなかつたんだろ。

丸岡 仕事ですから持つてこなくて普通ですよ。お気になさらず、どうぞ。

小松 困ります困ります。

丸岡 そうおっしゃらずに。

小松 そんなこだわらくても。

丸岡 ほんとに。

小松 いえいえ断じて。

丸岡 そうですか。

小松 すみませんなんか無理におしつけて。

いえ。

丸岡 丸岡、お土産を鞄に仕舞おうとする。

小松 でも困りますよね。

丸岡 はい?

小松 それ。所長が。その持つて帰つて家で一人で食べるにも。量が多いし。

丸岡 大丈夫です母がいますから。

小松 あつそうでした失礼。

丸岡、お土産を鞄に仕舞うのをやめ。

小松 えどうします。

丸岡 あどうしよう。

小松 いえならどうぞ。

丸岡 いやでも。

小松 どうぞ、どうか。

小松 そうですかね。

丸岡 そうですよ。

小松 じやあ。

丸岡 はい、どうぞ。

### 丸岡、小松に土産を渡す。

小松 いやこれいつも売り切れてて。滅多に買えないんです。  
丸岡 そうですよ。ここに住んでても滅多に買えないんですから。  
小松 うちの子喜びますよ、大好きなんですこれ。  
丸岡 それはよかったです。

小松、立ち上がり。

小松 一緒に、置きに行きます？

丸岡 え、小松さんの部屋にですか。

小松 はい。

丸岡 いやダメでしょ。私泊まつてませんから。

小松 ああそうか。

丸岡 でも、置きに行くくらい。

丸岡 後でいいでしょ。

小松 はい？

### 小松、お土産を手に持ったまま。

丸岡 困ります。

小松 戴きますよ。

丸岡 話逸らしてばかっかじやないですか。

小松 あはい。

丸岡 わざわざ非公式に、自腹できてくださったんでしょう。なら、ちゃんと話をしましょ  
うよ。

### 小松、隣のテーブルを見て、突然うろたえる。

丸岡 どうしたんですか。

小松 いえいえごめんなさい。

丸岡 座つて、それ、こちらに置いたらどうですかね。  
小松 え、あ、はい、ですね。

### 小松、土産箱をテーブルに置く。

丸岡 決定なんですか。

小松 決定かつて言われると、まあ、何をもって決定かによりますから。

丸岡 もう変わらないんですかつてことですよ。

小松 来年度の事業計画が固まり次第社内に通知されますから、それで正式に決定です。

### 小松、また、隣の席を気にする。

丸岡 人目が気になるなら、営業所で話しませんか。

小松 駄目ですよ。私が来たなんて万が一営業所の誰かに見られたらどうするんですか。

丸岡 誰もそこまで勘ぐりませんよ。

小松 所長だけに、相談に来たんです。

丸岡 相談ですか。

小松 微妙な時期なんでここで。

丸岡 相談ということは、営業所の閉鎖はまだ回避できるってことですよね。

小松 それはできません。

丸岡 じや何の相談ですか。

小松 どうやって、解雇するかつてことです。

丸岡 丸岡 どうやつて、解雇するかつてことです。

小松 丸岡 全員解雇なんですか。

丸岡 小松 転勤のできる人は。別の営業所での受け入れは検討しています。もちろん所長も。

丸岡 小松 みんないい年です。子供の学校とか親の介護とか。

丸岡 小松 天秤にかかるのは会社ですよ。

丸岡 丸岡 考え直してください。

小松 来年度の利益確保の為に議論した結果です。全国の営業所の営業員を20%削減せざるを得ないということになりました。負担は平等に。どこがどうとかではなく全国すべて一律です。所長のところは6人ですから20%削減となると、 $6 \times 0.8 = 4.8$ 人です。5人以下になりますよね。5人以下の事業所は原則廃止するのが社内の規定そういうことです。ご理解いただけますか。

丸岡 4・8名つて、ほぼ5人じゃないですか。

小松 丸岡 5人未満です。四捨五入つかはないですか。

小松 丸岡 だから、四捨五入はとかはしないですって。

丸岡 四捨五入したらいじやないですか。

小松 丸岡 できませんよ。人ですよ。

小松 丸岡 ちよつと待つてくださいよ。

小松 丸岡 もうこの案で融資をうけることに内諾をもらつてますから。会社に何かあつたら元も子もないでしょ。

丸岡 これからどうなるんですか、うちの営業所は。

小松 まず本社からの発表で全社で希望退職を募ります。営業所の廃止はまだ伝えちゃダメです。希望退職者にできるだけ多く手を挙げるようを持って行つていただきたい。くれぐれも労基に駆け込まれないように。所長の人徳は買つてるんですよ。所長ならきっとできます。

丸岡 私ですか。

小松 もちろんですよ。所長の役割です。いい給料もらつてあるんですから。

丸岡 そんな小松さんだつて。

小松 いやいやそんな所長にはかないませんよ。

丸岡 そんなことないですよ。

小松 いやいやいや何をおっしゃいますやらもうねえ。

丸岡 ։。

小松 だから私だつてこうして対象になつた所長に内密にお願いに回つてゐんぢやないですか。営業所を大きくするのも、営業所を小さくするのも時には無くすのも、所長であるあなたの仕事です。納得して辞めていただくよう説得できる人徳にも、会社は高い給料を払つてるんですから。

丸岡 辞めたほうがいいと言ひ聞かせろと。

小松 そうです、君ならここにいるよりもっと条件のいいところがきっとある。大切なのは親身になることですね。

丸岡 酷い話いです。

小松 私だつていまから7か所の営業所の所長に同じ話をするとんですよ。

丸岡 それより閉鎖を回避する方法をもつと考へませんか。何人の生活が懸かつて思つてるんですか。

小松 こつちは何百人の生活を背負つてるんです。あなたの知らないところで連日連夜さんざん考へました。無いです。融資を受けて会社の収支を安定させるためには、これしかないんです。

小松、隣のテーブルを見つめる。

丸岡 どうしたんですか。

小松、隣のテーブルを見つめる。

小松 あれ誰ですかね。

丸岡 あれつて。

小松 そこ。50位の男。

丸岡 え、どこですか。

小松 あ、やっぱそうですよね。

丸岡 どなたかいらしやいました？

小松、丸岡の移動を慌てて制止する。

小松 ちよつとすごいことを話していいですか。聞いてもらえませんか。

丸岡 言いますけどね。今の話よりすごい話があるんですか。なんですか。

小松 今朝私、首つり自殺を目撃したんですよ。

丸岡 どこで。

小松 立派なけやき林の公園があるじゃないですか。今朝行つたんですよ。朝つていつても5時すぎですけど。

丸岡 そんなに早くに。

小松 眠れなかつたんですよ。昨日仕事終わらせて最終便の飛行機に乗つて、そのままこのホテルについて、そのまま風呂に入つてビールを飲んで眠つてそのままあなたと会う予定だつたんですけど。上手に眠れなかつた。私も初めてですかからね。会社を大きくすることばかりに駆け回つてきたのが、小さくするために駆け回ることになつて。もつと仕事してくださいって言つて回つてたのが、もう仕事をしないでくださいっていわなきやならなくなつて。どうもストーリーが組めなくて。

丸岡 はい。

小松 朝も早いしさすがにこの時間なら誰とも会うことはないだろうつて思つて、ちょっと散歩しに行つたんですよ。いい天気でした。林の中はまだ暗かつた。男の人が首をつてました。一人で風景の一部みたいに。わりと距離はあつたんですけどでもね、間違いないんです見たんです。でも、私がここで発見するわけにはいかない。ですよね。こんな小さな町あつという間に私が来ることバレてしまうでしょう。だから、何事もなかつたように注意深く、できるだけ今までと速度を変えずに、歩幅も変えずに、すつーつて歩いていきました。振り返えらずそのまま1つで。

丸岡 え！ほおつておいたんですか。

小松 しようがないでしょ。でもね、その首つりの人人が。どうもねえ、うちの社員じやないかつて気がして。所長のところの。

丸岡 ええ！

小松 ああこれは、ごめんなさい。わからないです。でも、たしか森尾さんでいますよね。若白髪でそんなに若くはないけど。でも年の割に白髪で年の割に色白ででも年の割にマッヂョでマッヂョな割に。

丸岡 森尾さんなんですか！

小松 いやいやなんとなくです。そもそも私森尾さん自体そんなに知らないですから。

丸岡、携帯で電話をかける。

小松 さつき携帯で調べたんですよ。ちゃんと昼前には無事発見されたみたいです。ああよかつた肩の荷が下りた。明日の朝刊にでも載るんじやないですかね。でもまだ、誰がまではまだわかんないみたいで。

丸岡 つながりませんよ。森尾さん。

小松 そうですか。

丸岡 え、うそ。

小松 発見されたみたいですから。待ちましょ。慌てても何もできないですよ。

丸岡 いやでも。

小松 でね、もっとすごいことがあるんです。聞いてもらえますか。

丸岡 まだすごいのがあるんですか。

小松 今朝のその一件からなんですかね。

丸岡 はい。

小松 出るんですよ。

丸岡 はい？

小松 幽霊が。その人の。森尾さんかもしけない人の。

丸岡 は？

小松 そこに。（隣のテーブルを指し）

丸岡、驚いて立ち上がり「そこ」から距離をとる。

丸岡 ふざけないでください。

小松 ふざけてませんよ。今まで幽霊なんて見たこともないし、信じたこともないです。でも現実に出てくるんですよ。見えるんですけど明確にはつきりとぼんやりと。

丸岡 どっちですか。

小松 はつきりとですよ。首をつってた人と、だいたい同じスース、だいたい同じ顔、だいたい同じ髪の毛。確信したんですけど、これは幽霊だつて。ほんと普通に普通の人がいるみたいにくつきりなんですが。でもわかるんです。これは幽霊だつて。でね、所長に見えてなさそ娘娘なあつて思い始めて、確信したんです。これは幽霊だつて。

丸岡 何言つてんですか。

小松 いやほんとうなんですよ。

丸岡 疲れてるんですよ。疲れてますけど、出なくつてもいいと思いません。

小松 丸岡 いませんから。

小松 そこに：（隣のテーブルを見て）あらいますねえ。すわっています。こっちみてます。どうですかほんつとに見えないですか。

丸岡 見えないです。

小松 見えてほしいなあ。

丸岡、携帯を手にする。

小松 朝から、いたりいなかつたりしてたんですがね。いまはね、なんかずっといますね。あれ、どこかに。

丸岡 森尾さんの、ご自宅に、かけてみようかと。

小松 いいんじゃないですか。もしそうだつたらどうするんですか。もしそうだつたら家族全員いなでしようけど。いやまだ知らないかも知れない。でもそだとしてそんな不幸の電話みたいな。不吉ですよ。なんて言うんですか。

丸岡 森尾さん、つい最近コンビニでアルバイトすることがバレたんです。

小松 それは。

丸岡 ちゃんと本社には報告しますから。

小松 ならよかつた。

丸岡 昨日、面談して。副業禁止だから辞めるようについてお伝えして。はい。

丸岡 だからまさか。

小松 いやそれでっていうのはちょっとさすがにないでしょ。  
丸岡 わかりましたすみませんと言つてましたけど。アルバイトするからにはそれなりの事情もあつたでしようし。アルバイトやめさせてしまうわけですし。え本当に森尾さんなんですか。その、首吊りの人。

小松 聞いてみますか。

丸岡 何をですか。

小松 森尾さんかどうか。

丸岡 え、誰に。

小松 彼に。

丸岡 彼に。ああ彼に。

小松 見えるんですか。

丸岡 見えませんよ。

小松 聞いてみます。

丸岡 え、あ、はい。そうですね。お願ひします。

小松 小松、意を決し、満面の営業スマイルで聞いてみる。

小松 あの、誠に恐れ入りますが、森尾さん、で、いらっしゃいますかねえ。

が、返事は、ないようだ。

小松 アルバイトは、ちょっと、まずかつたですよねえ。  
丸岡 無視ですね。すつごい見てますけど。問い合わせには、無視ですね。  
小松 どこまで本気なのかわかんないですよ。

小松 どこまでも本気ですよ！見えないんですか！  
丸岡 見えませんて！

小松 なんで僕だけ。

丸岡 森尾さんの顔覚えてないんですね。お会いしたことありますよね。  
小松 営業所に行つたときにいらっしゃったことがあろうだろうって位で。ぼんやりした記憶しか。

丸岡 思い出してくださいよ。

小松 無理ですよ。

丸岡 どんな雰囲気ですか。

小松 そんなこと言つたって。なんといつていいか。だから若白髪でそんなに若くはないけど。でも年の割に白髪で年の割に色白でも年の割にマツチョでマツチョな割に。

丸岡、携帯で写真を撮つてみる。

小松 無茶しますね。

丸岡、写真を見て。

丸岡 いませんよ。

丸岡、小松に見せる。

小松 いますよ。いますって。

丸岡 ええ、うそ。

小松 どうしたらわかつてくれるんだろ。

丸岡 ちよつと…そうだ、描いてみてください。

小松 はい？

丸岡 その、見えてる人。

小松 なんですか。

丸岡 これに。

丸岡、鞄からノートとペンを取り出す。

小松 え、描くんですか。

丸岡 森尾さんかどうか、確かめますから。

小松 いやいやいや冗談でしょ。

丸岡 お願ひします。

小松 絵心がちよつと。あいや絵心というか、あの、え、あれを描くんですか。

丸岡 見えてるんでしょ。私見えないですから。わからないじやないです、森尾さんかどうか。

小松 いづれわかりますよ。発見されますから。

丸岡 お願いです。確認させてください。

小松 信じてくれるんですか。

丸岡 信じ始めました。

小松 ああありがとうございます。

丸岡 とにかくいつたん描いてみてください。

小松 でも。

丸岡 さらっとでもいいので。判断しますから。信じますから。いるんでしょ。

小松、隣の席をじっと見て。大きくなづく。

小松 ほんとに、ここ離れないでくださいね。

丸岡 もちろん。

小松、恐る恐る描き始める。

小松 まさかねこの年になつて幽霊を書くなんて。なんか、靈能力者みたいですよね。

丸岡 いや、もう、そうでしょ。

小松 それですね、営業所の廃止の件なんですが。

丸岡 はい？

小松 退職金の割り増しもね、一年分位は考えてまして。

丸岡 それじやさすがに。希望者でてこないんじや。

小松 だからそこでしょあなたの出番。それでそれぞれの人生設計を冷静に考えてあげて、

退職したほうが得なんだつていう道筋を立ててあげないと。

丸岡 この田舎町どれだけ仕事がないかご存じでしょ。

小松 目的はなんですか。希望退職にのつてもらうことですよね。

丸岡 いやいや、営業員の生活でしょ。

小松 だから、そういうことを言つてると、守れるものも守れなくなるんです。大切なのは事業計画を進めて融資を受けて会社を立て直すことで、それで沢山の従業員の生活が守れるんです。騙すんじやくて、こつちが得だつて道筋を示して。ごめんなさい。

丸岡 なんですか。

小松 今、あの人気が、怒った顔したみたいな気がして。

丸岡 そりや怒りますよ。そんな考え方じや。

小松 信じてくれるんですね。

丸岡 はい。

小松 ほんとありがとうございます。

丸岡 いえどうも。

小松 うちの営業員なんてほんと安月給なんですから、退職金を上乗せしてもらって転職した方が、長い目で見て絶対得なんですって。

丸岡 だから仕事ないです。

小松 なんでそんな否定的なことばつかり言うんですか。あなたの役目でしょ。逃れられない環境があるんですから、どうするかを考えなきや。ほんと無責任だな。自分だけは汚れたくないんですか。僕こんなに汚れてついには幽霊まででちゃつたのに。

丸岡 :すみません。

小松 できましたよ。

丸岡 見せて。

小松、丸岡に絵を見せる。  
へたくそな小学生みたいな絵。

小松  
全然わかんないですよね。

丸岡は、だが、確信する。

丸岡

小松 どうしたんですか。  
丸岡 森尾さんですこれ。

小松 いやいやいや、わかんないでしょ。  
丸岡 わかりますよ。ことと、こここの感じが。

小松 いやわからんないです。これじゃ、死なせてしまつた。

丸岡、「森尾」がいるらしい場所をじっと見る。

丸岡  
つらい。

小松 丸岡 だめです。つらいなんて言つた  
はい：ですよね。

小松 とにかく一刻もはやくですね。  
丸岡 はい。

小松  
丸岡  
えはい。

小松  
丸岡  
いやは知らないですね。  
二存じないですか。どう

小松 そうですか  
丸岡 携帯で調べたらどうですか。  
小松 ああですね。

小松、スマホでお祓いを調べ始める。

丸岡　自分のことばっかり。

小松 え、ああ。すみません。でも。  
丸岡 いえ、私も。いや私ががそだつて。

小松 え、ああ、ん？  
丸岡 森尾さんだつたら辛いなあつて。でもいや森尾さんもつと辛かつたんだろうに。

小松 わからないじやないですか。

丸岡 それにその、希望退職をね。みんなにそれをするのが辛いなあって、やつぱり思つてしまふんですよ。されるのがもつと辛いだろうに。というか辛いのにすら気が付かないんでしようね。私が上手にできればできるほど。そう思うともつと辛くなつて。結局辛い自分が辛いだけなのかなあとと思うと、うーんなんだかやつぱり辛い。

小松 まま、とにかく、今は、まだ考えてもしようがないでしょ。あつた。

丸岡 なんですか。

小松 これ、ほら。割と近くの神社ですよ。ああよかつた。

丸岡 あるもんなんですね。

小松 丸岡 今日やつてるつて。いつでもいいみたいですよ。ほんと助かつた。

小松 小松さんはすごいですよね。

小松 はい。

丸岡 メンタルが。

小松 そうですか。

丸岡 幽靈出ても、わりと平然と乗り越えてますよね。

小松 いやいやそんなことないですよ。

丸岡 そんな目にあつてでも耐えられるメンタルの強さにも給料払つてるんですね。会社は。

小松 しゃれになつてないですよ。いるんですよ、そこに。：あれ。いない。

丸岡 え。

小松 ああっ！丸岡さん、こつち。

小松、慌ててその場を離れる。わけがわからずその場にとどまる丸岡。

丸岡 なんですか。

小松 そこです！そこ。

丸岡 え、はい。

小松 そこーつ！！

（ようやく理解して）ええ！はいっ！

小松、その場を離れ、小松の元へ。

二人離れたところから、元のテーブルを、うかがう。

小松 今晚、もう一泊こつちで泊まることにします。

丸岡 そうなんですか。

小松 一緒に泊まつてくれませんか。

丸岡 は？私ですか。

小松 部屋、ツインで取りますから。

丸岡 いやですよ。

小松 お願いしますよ。お祓いでうまく消えたとしても、やっぱ、一人で寝るのはね、ち

よつとだけ、ちょっとだけじゃないです。怖いです。

丸岡 だからお帰りになつたら。

小松 一晩だけでいいですから。そこで、考えませんか。ビールと乾きものを買って飲みながらでいいじゃないですか。営業員のひとりひとりのことを。名前と営業成績と持つてるスキルとか性格とかご家族の状況とかをね、並べて想像しながら、どうしたらいいか、一生懸命考えましょうよ。一緒に。私も。考えますよ。みんながハッピーないいアイデアが生まれるかもしませんよ。

丸岡 なら私も、並べてください。そこに。

小松 えあ、はいもちろん。

丸岡 私、転勤できないです。

小松 え。じゃ、それも含めて考えましよう。

丸岡 希望退職ですね、自分が受けようと思つてるんですよ。

小松 含めて考えましよう。

丸岡 母親の面倒みなきやいけないので。

小松 一緒に行つたらいいじやないですか。

丸岡 年寄りですし。病気ですか。

小松 いやいやいや、なに言つてるんですか。

丸岡 それにね、やつぱり、自信ないです。辛いです。みんなにそんな。

小松 それはやりましょうよ。あなたの責任ですよ仕事ですよ。

丸岡 希望退職の仕事絶対に最後までまつとうできないです。ほんとうに申し訳ない。なんだか、ほんと無責任に一抜けたみたいになりますよね。でもやつぱり、小松さんみたいて、澤山のね従業員の生活を背負つてね、考えたりは。今の私にはちょっとむつかしいんです。背負いきれない。営業所のたつた6人ですら、もたないんですよ。

小松 それでもね、やんなきや会社がもたないんですよ。みんなの会社ですよ！

丸岡 はい。

小松 あああ死んじやだめですよ。

丸岡 はい？

小松 丸岡さん死んじやだめですかね。

丸岡 大丈夫ですよ。

小松 死ぬんだつたらやめましょ。死ぬんだつたら。やめましよう。

丸岡 死にませんよ死にませんけど。

小松 今晩いますからね。私ここに。

丸岡 もういいでしょ。

小松 丸岡さんを支えるのも、私の仕事です。

小松 もういいですよそこまでやんなくて。

小松 いや当然のことです、あれ！

小松、窓際へ走る。外を見る。

小松 丸岡さん、見えますか。こつち。

丸岡 え。

丸岡も、小松のそばへ。

小松 あの人。ホテルの清掃員。

丸岡 はい。

小松 見えますか！

丸岡 はい。・・・森尾さんです！！

丸岡、森尾の元へ、出て行こうとする。

小松、制止する。

小松 見なかつたことに。

丸岡 え。

小松 コンビニやめて、ここで働き始めたんじゃないですか。

丸岡 ・・・まさか。

小松 だつて、あの、覚束ない所在無げな感じ。

丸岡 よかつた…。

小松 そつとしておきませんか。

丸岡 じや、小松さんが見たのはなんだつたんでしょう。

小松が、元のテーブル、幽霊の居場所を見る。

小松 あれ、いない。

丸岡 いやいや、いますよ。あちらに。

小松 いや、その、幽霊。

丸岡 え。

小松 営業所の廃止の。・・・打ち合わせ、しましようか。

丸岡 今からですか。帰られなくなりますよ。

小松 泊りますから。

丸岡 もういいんじゃないですか。どうにもならないんですね。

丸岡さんのこと、解決してませんから。

いいですよ。私のことは決めてますから。

小松 どうするのが丸岡さんにとって、一番いいのかをですね。

丸岡 酒饅。お子さんお好きなんですよね。

小松 はい。

丸岡 それ、賞味期限がね、当日限りなんです。

小松 あ、なんですか。

丸岡 今日持つて帰らないと。

小松 あれそうでしたつけ。

丸岡 これね、人気でちやつて、開店5時で早い日だと6時ころには売り切れちゃうんですよ。

小松 どうりで買えないはずです。

丸岡 グルメなお子さんですよね。

小松 いやまあですね。

丸岡 お父さんの大切な戦利品じゃないですか。

小松 え。

丸岡 こんな目にあつてまで、勝ち取った戦利品じゃないですか

小松 いただきものでしけど。

丸岡 持つて帰つて自慢しましようよ。お子さん、喜びますよ。

丸岡、小松に土産箱を渡す。

小松 受け取る。

小松 ありがとうございます。

小松、丸岡、窓の外を見て。

丸岡 暑そうですね。

小松 森尾さん、どうやつたら、バレずに続けられるんでしょうか。

丸岡 ほんとですよ。

小松 とりあえず、それだけ、考えませんか。

丸岡 そうですね。

丸岡、森尾テーブルに着き、議論を始める。

小松 まずね、リスクを一通り洗い出しましょうか。

丸岡 はい。

小松 それで、リスクの大小と解決難易度別に分類してですね。

丸岡 帽子は深くかぶつた方がいいですね。

小松 それは解決方法なので今は関係ないです後でいいです。まずは、どんなリスクがあるかを一通り洗い出してから。

丸岡 すみません、はいはいはい。

小松 それでね、縦軸にリスクの大小横軸に解決難易度をマトリクスに整理して、右下に来たものから優先的に解決方法を考える必要があるんですよ。

丸岡 あ、メガネ。メガネどうですか。

小松 だからそれも解決方法ですよね。

丸岡 あはい。

小松 もつとロジカルに状況を整理してから戦略と戦術を立てていたかないと。特に今回のよう既に事象が発生している場合はよりスピード感のある的確な措置をとる必

要があつてですね…。

丸岡 白髪染めつてのは。黒ければ森尾さんとは。

小松 後です。それもまた解決方法ですよね。あなた私言つてることわかっています?そんなだからいつまでも地方の営業所の所長どまりで何年も何年も滞留するんですよ。

丸岡 すみません。

小松 :笑てます。

丸岡 はい。

小松 幽霊がね:笑つてますよ。

二人、幽霊を見た。

ふと、椅子が一つ、ガタンと倒れる（なんらかの仕掛けが施されている）

二人、とても驚く。溶暗。

おわり。

### 上演にあたつての注意事項

(1) 上演にあたつては著作者の承諾を得てください。

(著作者) 南田謙和 Mail minamidek@gmail.com

Twitter

(著作者) @minamidek

(2) 上演料の田安せ、チケット売上の3%としてねります。

例：3000円×300人＝90万×3%＝2万7千円  
ただし、短編オムニバス公演等の場合は、上演作品の按分とします。

例：右事例で、3本だけの1本としての場合は1／3で1%，9千円。

ただし、最小上演料金は5千円とし、オムニバス公演の際は上演作品数で按分とします。